

和綿「伯州綿」を活用した雇用・産業創出事業

自治体情報

鳥取県境港市

人口 / 35,895人

標準財政規模 / 8,083百万円

担当課 財団法人境港市農業公社事務局 (境港市役所商工農政課内)

電話番号 直通 0859-47-1049

実施主体 財団法人境港市農業公社

関連ホームページ

事業期間 平成20年度から

関係施策分類 ③

予算関連データ

総事業費：17,582千円 (H22)

名称	所管	金額(千円)
ふるさと雇用再生特別基金事業	厚生労働省	16,588
販売収入		994

施策のポイント

境港市を含む弓ヶ浜半島の特産品であった「伯州綿」を見直し、耕作放棄地を利用して綿花栽培を復活させ、産業化を目指す。かつての主要作物から雇用、産業の創出を図る点において、地域の特徴を活かした事業だと言える。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

耕作放棄地の解消策として休耕地の管理耕作用の作物を検討していた職員が、少ない労力で高齢者でも一定面積の栽培が可能な綿花の試験栽培を考案したことに端を発する。

日本古来の品種である和綿「伯州綿」は、今から300年以上前の江戸時代前期に栽培が始められたと言われ、かつて境港を含む弓ヶ浜半島は一大産地として全国に名を馳せた。その後、安価な外国産綿の台頭によって産地は衰退したが、「伯州綿」は市内の農家によって細々と栽培が続けられていた。

この復活を目指す取り組みもあわせ、平成20年度に財団法人境港市農業公社が市内の耕作放棄地を利用して「伯州綿」の栽培を試験的に開始した。

収穫された綿は繊維が太く弾力性に富み、保湿性にも優れているとして、布団の中綿として非常に高い評価を受けた。これが追い風となり、平成21年度からは国の雇用対策事業を活用して栽培面積を拡大し、本格栽培に取り組む運びとなった。

江戸時代、全国に知られたブランド綿であった「伯州綿」を、現代の地域ブランドとして確立させ、国産綿の需要を掘り起こして産業として成り立つ体制を整えることで、地域雇用の創出と同時に耕作放棄地の解消、新たな特産品の創出に繋げることを目的とする。

2. 取組の具体的内容

「伯州綿」の栽培、紡績後の各種繊維製品の開発、販路開拓、地元の新生児や高齢者への製品提供、地元栽培農家の育成、財団法人境港市農業公社における臨時職員の雇用など。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

「伯州綿」の地域ブランドとしての定着化、また「伯州綿」を商品化・産業化していく中での新たな雇用の創出など。

4. 現在までの実績・成果

平成20年度は536平方メートルにつき約60キログラム、平成21年度は約1ヘクタールにつき約668キログラムの収穫があった。平成22年度は約1.5ヘクタールにつき1,350キログラムの収穫があり、平成23年10月現在、6名の職員を雇用して約2.3ヘクタールで栽培を行っている。平成23年度中の綿製品販売開始を計画している。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

ブランド品として高付加価値化するため、農薬・化学肥料不使用による栽培を行っている。この栽培法では薬剤を使わない除草作業と病害の防除が必要となるため、大面積の栽培には大きな労力が必要になる。現在、機械や自然農薬を利用した除草と防除を行い、省力化を図っている。

地元で栽培する農家が育たなければ産業化は難しい。市民に栽培への知識と意欲を持ってもらうため、平成23年度から農業公社が圃場を提供し、収穫した綿を買い取る「栽培サポーター制度」を開始した。

6. 今後の課題と展開

「伯州綿」を商品化するには、必要な量を確保することが不可欠となってくる。そのために、栽培面積を2.3ヘクタールに拡大するほか、栽培サポーターを募集して種まきから収穫まで栽培してもらい、収穫した「伯州綿」の量に応じて対価を支払うという新たなモデル事業に取り組んでいく。

また、新生児及び100歳になられる高齢者に伯州綿製品の贈呈を行うなど、普及・啓発活動を通じた「伯州綿」の市民への定着化にも取り組んでいく。

また、今後さらに地域ブランド品として付加価値の高い製品の販売にも取り組んでいく計画である。